

# JIMPI BAND 後日談

## 天野隆文

天野皮膚科医院（逗子市）

2006年7月2日、神奈川県皮膚科医会40周年記念会において「JIMPI BAND」と称して浅井俊弥先生（ドラムス）をリーダーに、増田智栄子先生（キーボード）、袋秀平先生（ベース）、山本修先生（ギター）、天野隆文（ボーカル）の5人編成でロックバンドを結成しました。その後7月29日、パンパシフィックホテル横浜においてその後日談として座談会を催しました。酒豪揃いのメンバーで途中から皆さんかなりメートルも上がってきて取り留めのない話になってしまいましたので、少しアレンジさせていただきました。

公演当日



### ■演奏曲目

1. Smoke On The Water（ディーブ・パープル）
  2. Centerfold（J.ガイルズ・バンド）
  3. Born To Be Wild（ステッペンウルフ）
  4. Joy To The World（スリー・ドッグ・ナイト）
- 以下アンコール（!）
5. Birthday（ビートルズ）featuring 栗原誠一会長

### ■バンドを終えて

浅井：皆様当日はお疲れ様でした。いやあ楽しかったですね。実は演奏当日、すごく気合が入っていて人生のピークを迎えるかのようにでした。で、終わった後しばらく余韻があってそれ以降ちょっと人生下り坂に

なってるんです。

袋：え、それってバーンアウトじゃないですか？

浅井：そう燃え尽きたの。本番に。

袋：すごい、そんなに命かけていたんだ。

山本：近代まれにみる忙しさでしたしね。

袋：日曜日は練習につぶれるし。

増田：私は自分の練習時間を決めてピアノを弾いてましたね。

浅井：あ、計画的に練習していたんですね。僕ははっきりいって一夜漬けでした。申し訳ないけど（笑）。

増田：学会もたくさんあったし。大変でしたよね。



浅井先生 (dr)

### ■バンド編成について

増田先生 (ky)



増田：私、学生時代に軽音楽部だったんです。楽しかったけどもうこんなことないと思ってたのに、こんな風に音楽でき

るなんて……。声をかけられたとき、涙がでるほどうれしかった。

浅井：そりゃあ素敵ないい話だ。ではキャリアの話をしましょう。増田先生は？

増田：わたしはずっとピアノです。大学時代はビッグ・バンドのジャズ、高校時代はクラシック・ピアノでカワイのコンクールで全国大会、3位までいったことがあります。

浅井：そりゃすごい！ じゃ、山本先生は？

山本：高校1年からギターです。

天野：やはりジェフ・ベックからですか？

山本：普通はジェフ・ベックなんですけれども……、やるのは山下達郎とかジョニー・ウィンター

とかです。いまでも月に1回練習して年に2回ほどライブをやっています。

結局バンドだから、自分の好きな曲だけやるわけにいかないですよね。他の人に合わせる。で、自分の好きな曲もいれてもらうとか。今やってるバンドは大学の同級生とかMRさんも入ってやっています。

浅井：blankなくやっているんですか？

山本：時々空くのですが、たとえば自分の結婚式のためにバンドが集まったりして。



山本先生 (gu)

増田：あ、私も自分の結婚式のためにエレクトーン弾いたりしました。

天野：結婚式といえば私の友人の結婚式ときにビートルズのマニアックな曲を某芸能人が歌いまくってたりしてました(笑)。『I've Just Seen A Face』とか『Blackbird』とか……(天野歌う)。

増田：天野先生、人間ジュークボックスみたい。

浅井：そう、はじめは曲を決めるときにいくつか候補をだしてって天野先生に頼んだだけだったんです。まさか自分が歌うとは思わなかったでしょ？(笑)。袋先生のお宅で選曲する時点でボーカルをいろいろあたってみたんですが、皆に断られちゃって。曲を全部知ってる天野先生ならと思って。それで、無理やり頼んだ。

天野：そう、ほんと歌ったことないんです。カラオケも何年もやっていない状態でしたし。

浅井：だけどああいう選曲をして、いきなり「これ歌ってくれ」と言って「はい、分かりました」って人いないじゃないですか？



天野先生 (vo)

天野：私だって「はい、分かりました」なんて言わなかったですよ(笑)。

浅井：ま、とにかく助かった。ほんと助

かった。でも、袋先生もすごかったよね。

袋：僕、初めてベースやったんです。

増田：ええ？ 初めて？

袋：もともとはキーボードです。子供のころはピアノでその後エレクトーン、バンドでやってるとき

はキーボード。

増田：へえ。ロック？ やっぱり。

袋：ディープ・パープルでした。大学のときは歌うたってました。ギター、ボーカル……コーラスもやりました。

増田：え？ そうなの？ バス？

袋：バスです。一番下。

浅井：じゃ、1回バンドはなれたんだ。

袋：そうですね。自分の結婚式ときはコーラスだったんですよ。

増田：へえ、歌聴きたいなあ。



袋先生 (ba)

浅井：袋先生は僕と一緒に、すごく久しぶりにやったわけです。それにしてもうまかったよねえ。私も山本先生のようにずっとやってたのではなくて、久しぶりです。そもそもは高校生のときに音楽祭の直前にドラムスをやっていたやつが不登校になって、急遽ピンチヒッターでフィフス・ディメンションの『Aquarius』をやったんです。その後は、大学のときに仲間内でストレス解消のためにたたいていました。サザンオールスターズとか。大学生のときは特に目的もなくやりましたね。

増田：私は高校生のときに『Aquarius』を、創作舞踊で踊ってました。

浅井：とにかく皆久しぶりでメンバー決めるときも増田先生、袋先生が手伝って下さるのを見越していたのですが、私の人脈からのギタリストは都合がつかなくて、袋先生から山本先生に声をかけてもらった次第です。そういえば袋先生は当日体調悪かったですよね。

袋：目が回ってました(苦笑)。病院にかかってMRIまでとったのですが、結局過労ではないかということでした。

山本：浅井先生が我々の顔写真を撮られた時は、私はてっきり写真がそのままTシャツになるのかと思いましたよ。

浅井：そんな理由はないでしょう。家内にデザインしてもらった似顔絵をTシャツにしました。とにかく人生のピークともいえる楽しいバンド活動でした。50周年のときにでもまたやりましょう。

## ■後記

浅井先生の掛け声ではじまったバンドでしたが、普段お付き合いのなかった先生方と練習、バンドを通じて仲良くなれたのがとてもよかったというのが皆の意見だったと思います。その後も同じメンバーでボズ・スキヤッグスのライブに出かけたり、今後も音楽を通してお付き合いいただけると嬉しいです。



座談会を終えて

# 「40周年」 顛末記

## 鎌田英明

幹事長

神皮40周年記念式典、構想は企画委員会において2002年の時点で既に打ち出されていたと記憶しています。とりあえず、幹事長が当番幹事となり、開催地は横浜。そこまでは決定事項となっていました。

しかし、ちょうど高崎で行われることになっていた第21回日臨皮総会で、神皮がワンセクション任されることになり、そちらに医会の活動の重きがおかれていたこともあって、大きな進展はしばらくありませんでした。

少し山が動いたのはそれから1年ほど経ってからでした。菅原信会長（当時）のご意向が改めて伝えられ、栗原誠一幹事長（当時）が実行委員長と選ばれて本格的に動き始めたのでした。

これまでの「式典」の形式にこだわらずに、「とにかく楽しむ会」にしようというコンセプトが打ち出され、常任幹事全員と幹事の中からも実行委員が選ばれ、実行委員会が結成されました。

まず、会場をどこにするかということになり、「横浜の歴史を感じられる施設を！」という指令が飛びました。クリフサイド、赤レンガ倉庫、他の歴史的建造物などが候補に挙げられましたが、パーティーの時の食事の問題など、諸般の事情で難しいことが明らかになりました。たまたま私が「ニューグランドなんかは？」と口走ってしまったことから、「じゃ

あ会場は鎌田に任す」ということになってしまいました。まだ2年も先の夏の話ですし、勤務している病院の伝手もあることだと、当初気楽に引き受けたものの、いざ交渉にあたってみると、意外と壁は厚いことが分かりました。当然ですが、ホテルにとって、日曜日は結婚式を初めとしたバンケットの稼ぎ時です。今回我々が使用した会場で言えば、午前、午後2回ずつ計4回の結婚式を行える計算になるわけですから、まる1日せいぜい結婚式1回分にしかないイベントに貸すことに躊躇する気持ちも分からないわけではありません。何度かの厳しい交渉の末、「どうしてもニューグランドで、この記念すべき会を開きたい！」という熱意が伝わったのか、やっとホテル側も引き受けてくれることが決定して、胸をなでおろしました。上司と戦っていただいたバンケットセールス長島大介氏には、心より感謝しています。皆さん、ホテルニューグランドを利用してあげてくださいね。

あとは、お金の心配です。40周年は会の性格上メーカー共催は付けず、医会で資金を工面することに決定されていたため、あちこちの学会の趣意書を検討し、栗原幹事長や日下部芳志会計と意見を戦わせながら、見よう見まねで趣意書を作っていました。その中で生まれたのが、展示ブースのアイデアでした。メーカーさんにも商品展示で参加していただき

ながら資金面でも援助をしてもらおうという発想でした。本当に応募があるかどうか心配されましたが、7社が参加してくださり、大いに資金面が楽になりました。さらに日頃から医会の運営に協力して下さっている法人会員の皆様からも沢山のご協力をいただきました。まったくありがたいことで、人間「窮すれば通ず」です。そんなこんなで何とか資金面でも会を開ける目途がたちました。

こうしている間にも、企画委員会や常任幹事会などでたびたび激論を交わして、構想は煮詰まってきました。井上勝平先生を演者にお招きすること、皮膚科専門医試験にチャレンジすること、そしてまさかのJIMPI BANDの結成！ 松井潔先生のバンドだけでも驚きだったのに、わが医会のアイデアマンと芸達者の多さには感心するやら唾然とするやら、あらためて「層の厚さ」を認識させられました。

この構想を実行すべく、金丸哲山、木花光、増田智栄子、高須博の4先生はねじり鉢巻で（余裕で？）皮膚科専門医試験の問題集に取り組み、更に増田先生は、浅井俊弥、天野隆文、袋秀平、山本修の各先生達と貸しスタジオで、JIMPI BANDの音合わせにも汗を流す日々を送られていました。「私、本当

にできるのかしら～！」と悲鳴をあげながら。

そのほかの実行委員の先生方も、すべて自力でやらねばならない記念例会と祝賀懇親会を成功させるべく、さまざまな方面で活躍してくれました。もう一人、事務局の瀬尾志津江さんの頑張り踏ん張り気配りも忘れてはいけません。矢継ぎ早に飛び交うメールの洪水にも耐えて、しっかりと実務をこなしてくれました。大感謝でした。招待状の発送はギリギリになってしまいましたが、順調に準備は進められ、当日の役割分担もしっかり決まり、いよいよ40周年記念式典当日を迎えました。

前日の雨模様から一転、好天にも恵まれて会はスタートしたのでした。その後、予想以上の盛り上がりを見せて「40周年記念式典」が成功裏に終了したことは、参加された会員の皆さんも一緒に味わわれたことと思います。

神皮みんなで楽しんだ「40周年」に、来賓でいらっしやった近隣の医会の先生方や、法人の会社関係の皆さんからも、神奈川県皮膚科医会のまとまりのよさに、改めて賞賛のお言葉をいただいた記念の一日でした。

